

令和7年度（2025年度） 神代植物公園植物多様性センター事業年報

公益財団法人東京都公園協会 神代植物公園 植物多様性センター長
田中 利彦

I. はじめに

植物多様性の損失が懸念されている中、神代植物公園では他の植物園と連携して絶滅危惧植物の保護・増殖等を行う「植物多様性保全拠点園」（公益社団法人日本植物園協会認定）としての活動に取り組んできた。

神代植物公園植物多様性センターは、都内における植物多様性保全をより一層推進するため、保全上の様々な機能を総合的に担う拠点施設となることを目的に、平成24年（2012年）4月に開設された。開設当初から公益財団法人東京都公園協会が管理運営を受託し、平成28年度（2016年度）より指定管理者として職員10名の体制で運営している。

植物多様性センターの敷地は約26,000㎡あり、その中には学習園（16,000㎡）、情報館（650㎡）、栽培温室（200㎡）の施設がある。

学習園では、山地や石灰岩地を再現した奥多摩ゾーン、河原や雑木林を再現した武蔵野ゾーン、海岸や火山地形を再現した伊豆諸島ゾーンと、東京を代表する自然環境を再現した3つのゾーンを設け、それぞれの環境に合った植物を展示している。

情報館では、学習園で観察できる植物の案内・解説や、植物多様性に関するパネル等の展示を行っている。また植物・動物の図鑑や東京都の自然に関する図書文献が閲覧できる、ライブラリーコーナーが設けられている。館内のセミナールームでは、講座や学習プログラムを実施している。無菌培養室（非公開）では、ラン科植物を中心に無菌培養による増殖に取り組んでいる。

栽培温室は非公開であるが、東京都産の植物を中心に栽培・育成を行い、一部の絶滅危惧植物の生息域外保全にも取り組んでいる。

植物多様性センターの事業は、次の3つを軸に展開している。

1. 絶滅危惧植物の保護・増殖
2. 絶滅危惧植物に関する情報収集・発信
3. 植物多様性に関する教育・普及

絶滅危惧植物の保護・増殖としては、平成19年度（2007年度）から25年度（2013年度）まで神代植物公園において「絶滅危惧植物保全調査」の検討と実施、及び「絶滅危惧植物保全計画」の策定を行い、都内の絶滅危惧植物の生育状況の把握と保全対象種の検討を行ってきた。当該計画では、植物多様性センターが重点的に保全する植物種を「優先保全対象種」として118種（本土部43種及び島嶼部75種）選定し、平成25年度（2013年度）に策定した保全

策に基づき、それら植物種の現地調査等の生息域内保全や種子採取・無菌培養による増殖等の生息域外保全を平成26年度（2014年度）から行っている。

絶滅危惧植物に関する情報収集・発信としては、関係機関や保全団体とのネットワークを活かし、都内における絶滅危惧植物の現状と保全に向けた取組状況を把握した上で、情報拠点として各活動団体等が行う保全・保護・増殖活動に有効な支援を行うことを目的としている。また植物多様性センターでは、保全団体や愛好家等と学識経験者、公園管理者、行政機関が参加する情報連絡会を開催し、各団体等の取組について意見交換や情報交換を行っている。

植物多様性に関する教育・普及としては、近隣の小中学校や農学系の大学生等へ環境学習プログラムを企画立案し、教育普及活動を行っている。職員やボランティアによる園内のガイドツアーを実施するほか、職員や専門家による講座を開催している。

また利用者層の一層の拡充、特に乳幼児を連れたファミリー層をはじめとする家族連れや低年齢層者が利用できる場の提供を目標として、“チルドレンズミュージアム”を令和5年度（2023年度）より開始した。

本報告は、植物多様性センターが令和7年度（2025年度）に実施した事業や取り組みを年報としてとりまとめたものであり、植物多様性センターへのご理解とご支援をいただく上での参考としていただくおともに、今後事業や取り組みの進展を図る上で、技術の向上や事業の推進に役立たせることができると考えている。

Ⅱ. 絶滅危惧植物の保護・増殖の取り組み

1 優先保全対象種等の植物調査

優先保全対象種については、生息域内保全の一環として、生育状況及び生育環境のモニタリング調査を実施している。調査結果については「保護・増殖カルテ」に取りまとめ、保存している。なお令和7年度（2025年度）は本土部での調査は実施せず、島嶼部でのみ調査を実施した。島嶼部において令和7年度（2025年度）に実施した優先保全対象種の調査結果を、表1に示した。大島、神津島及び御蔵島において11種20地点の調査を実施した。

大島と神津島では、それぞれ島内で植物保全活動に取り組んでいる大島自然愛好会、七島花の会神津島の皆さんにご案内いただいた。また同時に、最近の生育状況や保全状況に関するヒアリングを行った。

多くの調査地点では生育個体を確認することができた。大島では、外来生物キョンによる食害を確認した。また御蔵島では、花以外では種の同定が困難であるエビネ類に関して開花期に調査を行い、種の特定を行うことができた。

表1 島嶼部における優先保全対象種の調査

No.	調査日	種名	調査概要
1	4月22日	コウツエビネ	1個体確認。開花確認。ニオイエビネと思われる。
2	4月22日	コウツエビネか ニオイエビネ	5個体確認。開花確認。コウツエビネ、ニオイエビネではなく、キ リシマエビネであることを確認。
3	4月23日	コウツエビネか ニオイエビネ	1個体確認。開花確認。ニオイエビネと思われる。えびね公園の 中。
4	4月24日	ヨウラクラン	4個体確認。つぼみを確認。
5	4月24日	ハコネコメツツジ	5集団確認。つぼみを確認。
6	4月24日	マメツタラン	1個体確認。つぼみを確認。
7	6月9日	アマドコロ	16個体確認。キヨンの食害により個体数減少。キヨンが食べない ナツトウダイの間に株が残る。
8	6月9日	ナギラン	個体確認できず。近隣で15株確認。
9	6月9日	ナギラン	個体確認できず。
10	6月10日	ナギラン	個体確認できず。キヨンの食害により消失。
11	6月10日	ナギラン	25個体確認。キヨンの食害により個体数減少。
12	6月11日	イチヤクソウ	18個体確認。キヨンの食害及び台風による倒木処理により個体数 減少。
13	7月7日	マメツタラン	5集団確認。岩石に高密度に着生しているが、範囲が縮小してい る。
14	7月7日	コウツエビネ	1個体確認。
15	7月7日	コウツエビネ	2個体確認。
16	7月7日	コウツエビネ	3個体確認。
17	7月8日	コウツエビネ	4個体確認。
18	7月8日	トキソウ	個体確認できず。
19	7月9日	エビネ	山岳地でアクセス困難なため未到達。ヒアリングによると、おそ らく個体はあるだろうとのこと。
20	7月9日	ナヨテンマ	山岳地でアクセス困難なため未到達。ヒアリングによると、数年 確認できていないとのこと。



写真1 大島での調査



写真2 マメツタラン

2 東京都内における生息域外保全

令和7年度（2025年度）に植物多様性センターで実施した、東京都内における生息域外保全の実績を、表2に示した。令和6年度（2024年度）から東京都環境局の「保全地域における希少種保全事業」に係る支援を行っており、その一環としてカキランの無菌播種を実施した。

表2 東京都内における生息域外保全の実績

No.	種名	採取日	備考
1	フジバカマ	4月23日	種子受取。一部播種し栽培。新宿御苑へ送付して種子保存。
2	オキナグサ	5月1日	種子及び個体受取。多摩市文化振興財団からの依頼。一部播種し栽培。新宿御苑へ送付して種子保存。
3	カキラン	8月13日	果実受取。東京都環境局「保全地域における希少種保全事業」への支援。不稔果実
4	カキラン	9月5日	果実採取。東京都環境局「保全地域における希少種保全事業」への支援。無菌播種実施。
5	オヒルムシロ	12月3日	個体受取。東京都東部公園緑地事務所からの依頼。東京都産個体の民家での育成株。



写真3 カキランの無菌播種



写真4 オヒルムシロ

3 建設局等の事業に対する絶滅危惧植物等の保全に関する取り組みへの支援

令和7年度（2025年度）に実施した、東京都建設局等の事業に対する絶滅危惧植物等の保全に対する取り組みへの支援の実績を、表3に示した。

表3 東京都建設局事業等に対する絶滅危惧植物等の保全に関する取り組みへの支援の実績

事務所・担当部署	状況	植物名・数量等	日付	支援内容
建設局西部公園緑地事務所 工事課緑化推進担当	都立公園における 希少植物の保全	ヤナギスブタ	7月17日	生息域外保全の実施 （個体の受け入れ）
建設局北多摩南部建設事務所 工事第一課環境対策担当	関戸橋架替事業に伴う 希少植物の保全	カワラノギク種子	3月4日	種子の保存

Ⅲ. 絶滅危惧植物に関する情報収集・発信の取り組み

1 植物多様性センター蔵書数

植物多様性センターでは、植物に関する書籍や地域資料、保全団体発行の研究報告等の収集を行っている。収集した資料は情報館内ライブラリーコーナーにおいて公開し、来館者にご利用いただいている。

蔵書数を表4に示した。新たに令和7年度（2025年度）は32点の収集を行い、累積収集数は1,206点となった。

表4 植物多様性センター蔵書数

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
冊数	134	253	180	56	72	79	58	80
年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7		計
冊数	154	38	21	28	21	32		1,206



写真5 ライブラリーコーナー



写真6 ライブラリーコーナー利用状況

2 神代植物公園植物多様性保全に関する情報連絡会

植物多様性センターでは毎年、東京都西部公園緑地事務所と共催で、学識経験者や地域植物保全団体等との情報や意見の交換により、植物多様性保全事業に資することを目的とした情報連絡会を、本土部と島嶼部に分けて開催している。

令和7年度（2025年度）は本土部については1月24日に神代植物公園本園植物会館大集会室で実施した。参加保全団体による、活動報告についてのポスターセッションを行い、情報や意見の交換の場を提供した。島嶼部については2月15日に植物多様性センター情報館内セミナールームで実施した。伊豆諸島各島から、植物の現状や活動状況の報告が行われ、アドバイザーやオブザーバーを交えた意見交換を行った。次第を表5～表6、参加者数を表7に示した。情報連絡会では毎回、参加者による意見交換が熱心に行われている。特に島嶼部は参加者が一堂に会する貴重な機会であり、今年度は希少種に関する島民の意識や外来種の状況等の話題を中心に、情報交換が活発に行われた。

表5 情報連絡会（本土部）次第

敬称略

1	開会挨拶	松浦 光明	東京都西部公園緑地事務所工事課長
		遊川 知久	国立科学博物館筑波実験植物園 園長
2	アドバイザー紹介	遊川 知久	国立科学博物館筑波実験植物園 園長
		藤田 卓	公益財団法人日本自然保護協会
3	植物多様性センターの事業報告	田中 利彦	神代植物公園植物多様性センター
4	「東京都の保護上重要な野生生物の戦略的保全方針」及び「外来種対策行動の手引き」と「外来種対策リスト2025」の公表について	内山 香	東京都環境局自然環境部計画課 生物多様性専門課長
5	デジタル版野生生物目録「東京いきもの台帳」 植物目録公開とフロラ調査のここまで	内野 秀重	東京都立大学牧野標本館
6	ポスターセッション		
7	講評	アドバイザー	
8	閉会挨拶	松井 映樹	神代植物公園 園長

表6 情報連絡会（島嶼部）次第

敬称略

1	開会挨拶	松浦 光明	東京都西部公園緑地事務所工事課長
		遊川 知久	国立科学博物館筑波実験植物園 園長
2	アドバイザー紹介	遊川 知久	国立科学博物館筑波実験植物園 園長
		加藤 英寿	東京都立大学牧野標本館 助教
		藤田 卓	公益財団法人日本自然保護協会
3	植物多様性センターの事業報告	田中 利彦	神代植物公園植物多様性センター
4	「東京都の保護上重要な野生生物の戦略的保全方針」及び「外来種対策行動の手引き」と「外来種対策リスト2025」の公表について	内山 香	東京都環境局自然環境部計画課 生物多様性専門課長
5	デジタル版野生生物目録「東京いきもの台帳」 植物目録策定の進行状況と今後の課題	加藤 英寿	東京都立大学牧野標本館 助教
6	第三次伊豆諸島レッドリスト・レッドデータブックのご報告	資料配布	東京都環境局自然環境部計画課
7	植物多様性保全に関する島嶼部からの活動報告	上條 隆志	筑波大学大学院生命環境科学研究科 教授
8	各島からの報告		
9	講評	アドバイザー	
10	閉会挨拶	松井 映樹	神代植物公園 園長

表7 情報連絡会の参加者数

区分	開催日	参加者数		
		保全団体等	アドバイザー	オブザーバー
本土部	1月24日	29	2	20
島嶼部	2月15日	23	3	7



写真7 情報連絡会・本土部（1月24日）



写真8 情報連絡会・島嶼部（2月15日）

3 ホームページのコラム

植物多様性センターのホームページのリニューアルに伴い、令和6年（2024年）4月より「植物多様性センターコラム」を開始し、毎月1回更新している。令和7年度（2025年度）の「植物多様性センターコラム」のタイトルを、表8に示した。

表8 「植物多様性センターコラム」タイトル

No.	更新日	タイトル
1	4月16日	アカメガシワの秘密
2	5月15日	オオキリシマエビネとコウツエビネ
3	6月14日	種子から育てたスカシユリ
4	7月17日	マヤランとキノコ
5	8月15日	意外と知らない！ミツバチの生態
6	9月14日	伊豆諸島のオトコエシ
7	10月15日	学習園で楽しむ紅葉の多様性
8	11月15日	マメ科の大戦略
9	12月15日	奥多摩の生態系
10	1月21日	年輪と放射組織
11	2月15日	また学習園で咲かせたい！バックヤードの植物たち
12	3月18日	雑木林の春

4 ニュースレター「おとしぶみ」の発行

ニュースレター「おとしぶみ」を毎月発行し、植物多様性センター及び神代植物公園本園で配布し、ホームページでも公開を行っているほか、都立公園等の施設に送付している。A4判カラー両面印刷で、令和7年（2025年）7月号から紙面を一部リニューアルして見やすくし、表面では植物多様性センターでの見ごろの植物を中心にメイン記事を掲載、裏面では「ひと

こと日記」として職員の活動や発見をコラム的に掲載している。表面のメイン記事のタイトルを、表9に示した。

表9 「おとしぶみ」表面タイトル

号数	発行月	表面タイトル
153	4月号	4月の風媒花
154	5月号	冬芽たちのビフォーアフター
155	6月号	ミツバチ頑張ってます！
156	7月号	奥多摩ゾーンに新園路開通！
157	8月号	学習園のチョウと食草
158	9月号	植物たちの暑さ対策！
159	10月号	雑木林の植物たち
160	11月号	秋を告げるキク科植物
161	12月号	「虫こぶ」がいっぱい！
162	1月号	「休眠芽」から見るラウンケルの生活形！
163	2月号	「冬の樹木観察講座」を開催しました！
164	3月号	植物を支える、見えない土の世界



図1 「おとしぶみ」12月号（表面）



図2 「おとしぶみ」1月号（裏面）

IV. 植物多様性に関する教育・普及の取り組み

1 エントランス展示

植物多様性センターでは情報館内のエントランス展示を、年に数回更新している。令和7年度（2025年度）のエントランス展示の実施概要を、表10に示した。

表10 エントランス展示の実施概要

期間	タイトル
令和6年度～7月18日	復刻！灯台下暗し！イネ科植物
4月19日～3月1日	みんなで作ろう！植物標本
7月19日～9月30日	観察レポートを作ろう！
10月1日～3月1日	落葉という戦略
3月3日～令和8年度継続	花の付きかた並びかた 花序



写真9 みんなで作ろう！植物標本



写真10 花の付きかた並びかた 花序

2 フィールドニュースボード

植物多様性センターでは情報館内に「フィールドニュースボード」を設け、花や果実に限らず芽吹きや紅葉等、見ごろの植物の紹介を行っている。職員が基本的に毎週1回学習園を巡回して情報を収集し、内容を更新している。また令和8年（2026年）1月には必要な情報を見やすくするため、基盤面の更新を行っている。

3 その他の展示

情報館内では、温室やビニールハウス等の非公開施設で栽培している植物の一部について、開花期等に情報館内に鉢を持ち込んで展示している。また小動物は幼児や児童の関心が高いので、学習園に生息するヒガシニホントカゲやアオダイショウ、また夏季にはチョウの幼虫等昆虫類の展示を行い、大人まで含めた広い年齢層から人気の展示となっている。

令和7年（2025年）5月から、情報館内で東京メダカ（ミナミメダカ東京産個体群）の展示を開始した。これは、令和元年（2019年）に葛西臨海水族園、都立農業高校との3者で交わした「東京めだか」譲渡及び普及啓発に関する合意書”に基づくものである。平成元年（1989年）に神代植物公園水生植物園で採集し、葛西臨海水族園で継代飼育されてきた貴重な東京産個体群を展示するもので、生物多様性保全（遺伝子保全）に関する教育・普及効果が大きい。

いと判断し、展示を行った。展示にあたっては教育・普及効果が高まるよう、解説パネルとセルフガイドシートを作成している。



写真11 フィールドニュースボード



写真12 東京メダカの展示

4 ガイドツアーの回数と参加者

植物多様性センターでは原則8月と1月を除く毎週日曜日に、来園者（特に初心者）を対象とした40分程度のガイドツアーを実施している。令和7年度（2025年度）の実施回数と参加人数を、表11に示した。

表11 ガイドツアーの実施状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
回数	3	3	5	4	－	4	2	3	3	－	3	5	35
参加人数	22	25	38	38	－	27	22	42	26	－	41	54	335

また5月4日みどりの日は神代植物公園本園が無料開園日であり、多数の入園者が見込まれた。そこで植物多様性センター正門正面に位置する本園通用門を開放し、入園者を植物多様性センターへ取り込んだ。当日は職員による1回15分程度のプチガイドツアーを5回開催したところ、合計121人の参加があった。



写真13 ガイドツアー（4月20日）



写真14 プチガイドツアー（5月4日）

5 団体ガイド

植物多様性センターでは原則1か月に2団体を上限として、団体ガイドを実施している。令和7年度（2025年度）の実施状況を、表12に示した。

表12 団体ガイドの実施状況

No.	実施日	団体名	参加人数
1	6月14日	神代植物公園ガイドボランティア	9
2	12月6日	昭島市環境課職員・保全ボランティア	5
計			14

6 植物多様性に関する講座

植物多様性センターでは植物や生物多様性に関する講座を、事前申し込み制で実施している。令和7年度（2025年度）の実施状況を、表13～表14に示した。

7月21日に第17回「みんなで守ろう日本の野生ラン」シンポジウムを、ラン懇話会との共催により開催した。前年度と同様オンラインとのハイブリッド形式により開催し、オンラインでは31人の参加があった。10月5日には植物生態学者多田多恵子氏を講師としてお招きし、「花のレストラン～花と昆虫の不思議な関係～」を開催した。また10月26日と11月9日に開催した「植物標本をもっとつくろう！」は、東京都立大学牧野標本館ハーバリウムスタジオとの合同開催で2回連続の講座とし、牧野標本館の加藤英寿助教を講師として10月26日の第1回講座は植物多様性センター、11月9日の第2回講座は東京都立大学牧野標本館を会場として実施した。

表13 植物多様性に関する講座の実施状況(1/2)

敬称略

No.	実施日	時間	題	講師	参加人数
1	4月29日	13:30～15:30	植物の基礎知識～葉のカタチ・つき方～	センター職員	22
2	7月21日	10:10～16:30	第17回「みんなで守ろう日本の野生ラン」シンポジウム	中山 博史 大貫 一夫 藤森 祥平 任海 正衛	64(現地33、オンライン31)
3	7月26日	18:00～20:00	ようこそ！夜の植物多様性センターへ	石川 和宏 センター職員	27
4	9月27日	13:30～15:30	植物とミツバチの科学	杉沼 えりか センター職員	31
5	10月5日	13:30～15:30	花のレストラン～花と昆虫の不思議な関係～	多田 多恵子	35
6	10月26日	13:30～15:30	植物標本をもっとつくろう！（1）	加藤 英寿	14

表14 植物多様性に関する講座の実施状況 (2/2)

敬称略

No.	実施日	時間	題	講師	参加人数
7	11月9日	13:30～15:30	植物標本をもっとつくろう！(2)	加藤 英寿	13
8	11月16日	13:30～15:30	はじめての蘚苔類！	古木 達郎	20
9	12月21日	13:30～15:30	冬の樹木観察	センター職員	18
10	1月11日	13:30～15:30	新春・職員持ち寄り発表会	センター職員	29
11	2月28日	13:30～15:30	芝生でロゼット観察	センター職員	20
合計					100



写真15 第17回「みんなで守ろう日本の野生ラン」シンポジウム（7月21日）



写真16 植物標本をもっとつくろう！（10月26日）

7 植物多様性センター外部の展示

植物多様性センターでは生物多様性保全の普及を目的として、他の公園・植物園等においてパネル等の展示を実施している。

（1）パネル「知るほど楽しい生物多様性」

令和6年度（2024年度）に作成し、植物多様性センター情報館内に展示していたパネル「知るほど楽しい生物多様性」（A3判4枚組）を用いて、夏休み期間を中心に他の公園や施設での出張展示を行った。メールや電話で案内を行ったところ、15か所から申し込みがあり、PDFでデータ提供を行った。実施施設と期間を表15に示した。

表15 外部展示（知るほど楽しい生物多様性）の実施状況

施設	期間	施設	期間
赤塚公園	7月1日～8月31日	水元公園	7月15日～8月31日
木場公園	7月11日～8月31日	蘆花恒春園	6月23日～6月30日
善福寺公園	9月8日～9月14日	和田堀公園	7月26日
東京臨海広域防災公園	8月2日～8月3日	とちぎ花センター	8月8日～8月31日
舎人公園	7月23日～8月31日	東南植物楽園	7月7日～3月31日
戸山公園	7月21日～8月31日	白馬五竜高山植物園	7月1日～10月19日
東村山中央公園	7月14日～8月31日	緑・上連雀フォー （三鷹市公園ボランティア）	7月14日～3月31日
府中の森公園	6月30日～8月31日		



写真17 善福寺公園における展示



写真18 東南植物楽園における展示

（２）国立科学博物館筑波実験植物園でのパネル展示

12月7日～12月14日に国立科学博物館筑波実験植物園で開催された「つくば蘭展」において、ラン科植物を中心に絶滅危惧植物保全の取組に関するパネル（A2判1枚）を新たに作成して展示した。



写真19 国立科学博物館筑波実験植物園
「つくば蘭展」

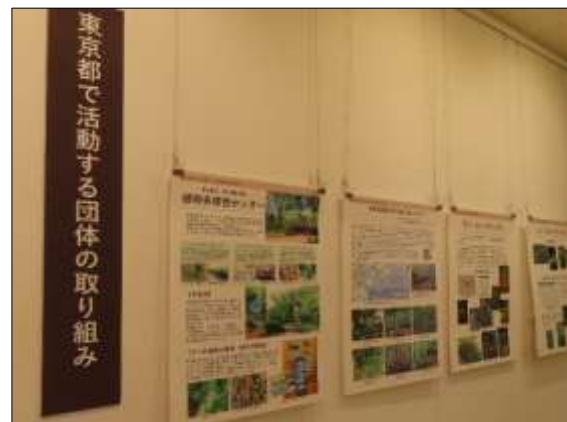


写真20 「つくば蘭展」でのパネル展示

(3) 調布市環境フェアへの出展

11月1日に調布市役所前広場で開催された第53回「調布市環境フェア」に、初めて出展した。ブースを設け、パネル「知るほど楽しい生物多様性」や植物多様性センターで見られる種子・果実等の展示を行った。クイズコーナーを設置し、パンフレット等の配布も行うなど、植物多様性センターの取組の紹介に努めた。



写真21 調布市環境フェア出展ブース



写真22 調布市環境フェアでの展示

8 植物多様性センター外部の講座

植物多様性センターでは植物保全や生物多様性保全の普及を目的として、依頼に応じて植物多様性センター職員を講師とした外部での講座を実施している。令和7年度（2025年度）の実施状況を、表16に示した。

表16 外部での講座の実施状況（令和6年度）

No.	実施日	参加人数	題	場所
1	9月23日	20	初秋のサンクチュアリツアー	小山内裏公園

9 学習プログラム

植物多様性センターでは原則1か月に2団体を上限として、学校や各種団体向けに植物をテーマとした学習プログラムを植物多様性センター職員を講師として、セミナールームでの室内講義と学習園での観察や実習を組み合わせた形式で実施している。また大学や専門学校からのインターンシップについても、学習プログラムの一環として受け入れている。令和7年度（2025年度）の実施状況を、表17に示した。

新たな取組として、近隣の調布市立神代中学校の夏休み中の理科の課題に協力し、植物分類に関するワークシートを作成して、夏休み期間中に植物多様性センターで調べものをすることにしたところ、夏休み期間中に1年生280人の来訪があった。また北海道や埼玉県の中学生から、修学旅行中の課題対応の申し込みがあり、職員が対応した。

表17 学習プログラム実施状況

No.	実施月	団体名	人数
1	4	北海道教育大学付属中学校	4
2	4	調布市立北ノ台小学校	29
3	5	調布市立北ノ台小学校	84
4	5	明治大学農学部	1
5	5	Kids Duo International	13
6	6	東京都立大学プレミアムカレッジ	29
7	7	調布市立北ノ台小学校	112
8	7～8	調布市立神代中学校	280
9	8	東京農業大学地域環境科学部	2
10	9	東京農業大学地域環境科学部	2
11	9	帝京科学大学生命環境学部	7
12	11	世田谷区立明正小学校	25
13	11	調布市立北ノ台小学校	110
14	1	埼玉県上尾市立東中学校	5
15	1	調布市立北ノ台小学校	80
16	2	調布市立北ノ台小学校	29
合計			812



写真23 北海道教育大学付属中学校（4月8日）



写真24 調布市立北ノ台小学校（11月11日）

10 チルドレンズミュージアム

植物多様性センターでは教育・普及に関する取り組みの対象層の拡大、及び利用者層の一層の拡充を目的として、特に乳幼児を連れたファミリー層をはじめとする家族連れや低年齢層者が利用できる場を提供し、植物を楽しみ親しんでもらうことができるよう、“チルド

レンズミュージアム”を令和5年度（2023年度）より開始した。

具体的には情報館内に、ハンズオン展示を設置した「チルドレンズミュージアム・コーナー」や子ども向け図書を集めた「えほんコーナー」を設けるとともに、セルフガイドシートの配布やミニイベントを開催した。また前述した講座についても、「ようこそ！夜の植物多様性センターへ」等の対象が子どもや親子連れである企画は、チルドレンズミュージアムの一環として実施した。令和7年度（2025年度）はぬいぐるみや案内看板の増設により、「チルドレンズミュージアム・コーナー」のディスプレイの充実を図った。イベント等の実施状況を、表18に示した。

表18 チルドレンズミュージアム実施状況

No.	実施日	題	参加人数	配布枚数
1	4月26日～7月29日	植物クイズ「樹木の葉っぱクイズ！」	—	560
2	5月27日～7月6日	七夕展示・イベント	33	—
3	7月19日～9月30日	植物・動物 観察レポートをつくろう！	116	—
4	7月26日	ようこそ！夜の植物多様性センターへ	27	—
5	7月30日～9月30日	植物クイズ「夏の葉っぱクイズ！」	—	140
6	9月27日	植物とミツバチの科学	31	—
7	10月1日～11月12日	植物クイズ「秋のきののみクイズ！」	—	120
8	12月13日～3月1日	植物クイズ「落葉樹の葉痕クイズ！」	—	250
9	2月8日	どんぐりクラフト	4	—
10	3月31日～	植物クイズ「樹皮クイズ！」	—	30



写真25 植物とミツバチの科学（9月27日）



写真26 どんぐりクラフト（2月8日）

11 学習園植栽植物

植物多様性センターでは学習園を、東京を代表する自然環境を再現した3ゾーン（奥多摩・武蔵野・伊豆諸島）とそれ以外の管理地に区分し、来園者の観察・学習を目的として、それぞれの環境に合った植物を展示している。令和7年度（2025年度）は奥多摩ゾーンでは新たに通した園路沿いにヤブムラサキやオヤマボクチ等山地性の植物の補植、武蔵野ゾーンでは低茎草地エリアでビオトープ池を拡充し、サジオモダカ、サクラタデ等湿生植物の補植、池周リエリアには環境に適したタチヤナギ等ヤナギ類の植栽、また伊豆諸島ゾーンではハマハタザオやハマシャジンのほか、絶滅危惧種シマキンレイカの植栽を行った。温室やバックヤードから学習園に植栽した植物の一覧を、表19～表22に示した。

表19 学習園植栽植物一覧(1/4)

月	種名	植栽ゾーン	種名	植栽ゾーン
4	アカソ	奥多摩	スミレ	武蔵野
	アキノハハコグサ	奥多摩	タンキリマメ	管理
	オオツクバネウツギ	奥多摩	ツクバネガシ	管理
	オオバエゴノキ	伊豆諸島	ツボクサ	武蔵野
	オオバエゴノキ	管理	ノコギリソウ	奥多摩
	オオバグミ	武蔵野	ハクサンボク	武蔵野
	オトコヨウゾメ	奥多摩	ハチジョウイボタ	伊豆諸島
	オヤマボクチ	奥多摩	ハナムグラ	管理
	カスマグサ	奥多摩	ハマサオトメカズラ	伊豆諸島
	ギンレイカ	奥多摩	ハマシャジン	伊豆諸島
	クララ	奥多摩	ハマハタザオ	伊豆諸島
	ケキツネノボタン	管理	ハマホラシノブ	伊豆諸島
	ゴウソ	管理	ヒカゲスミレ	奥多摩
	ゴキヅル	武蔵野	ヒナワチガイソウ	管理
	サギゴケ	武蔵野	ヒメシオン	奥多摩
	サジオモダカ	武蔵野	ボタンボウフウ	伊豆諸島
	シチトウエビヅル	管理	マルバアキグミ	武蔵野
	シマウチワドコロ	管理	ミゾコウジュ	武蔵野
	シマガマズミ	管理	ヤブニッケイ	武蔵野
	シマタヌキラン	伊豆諸島	ヤブムラサキ	奥多摩
	シロヤブケマン	奥多摩	ラセイタタマアジサイ	伊豆諸島
	スカシユリ	伊豆諸島	リュウノウギク	奥多摩
	ズミ	管理	リョウブ	奥多摩
5	アキノハハコグサ	奥多摩	シモツケ	武蔵野
	アゼナルコ	武蔵野	シラネセンキュウ	奥多摩
	アツバスミレ	武蔵野	スカシユリ	伊豆諸島
	イカリソウ	管理	タチヤナギ	武蔵野
	イケノヤナギ	武蔵野	ツクバネウツギ	奥多摩
	イワタイゲキ	伊豆諸島	ツボクサ	武蔵野
	ウメモドキ	武蔵野	ナツハゼ	管理
	ウリカエデ	奥多摩	ナベナ	奥多摩

表20 学習園植栽植物一覧(2/4)

月	種名	植栽ゾーン	種名	植栽ゾーン
5	エゾエノキ	奥多摩	ニガカシュウ	武蔵野
	エビガライチゴ	奥多摩	ノコギリソウ	奥多摩
	オウギカズラ	奥多摩	ノハラアザミ	奥多摩
	オオバチドメ	奥多摩	ノリウツギ	武蔵野
	オオヒナノウスツボ	奥多摩	バйкаツツジ	奥多摩
	オミナエシ	武蔵野	ハダカホオズキ	奥多摩
	オヤマボクチ	奥多摩	バッコヤナギ	奥多摩
	カワヤナギ	武蔵野	ハマシャジン	伊豆諸島
	カワラヨモギ	武蔵野	ハマシャジン	武蔵野
	キバナアキギリ	奥多摩	ヒゲスゲ	武蔵野
	ギンレイカ	奥多摩	ヒメシロネ	武蔵野
	クサイチゴ	武蔵野	フヨウ	管理
	コアカソ	管理	ホトトギス	管理
	コバノカモメヅル	奥多摩	マルバマンネングサ	奥多摩
	コマツナギ	奥多摩	ミシマサイコ	奥多摩
	コムラサキ	武蔵野	ムラサキ	武蔵野
	サギゴケ	武蔵野	メハジキ	奥多摩
	サクラタデ	武蔵野	ヤクシソウ	奥多摩
	サワグルミ	管理	ヤブデマリ	奥多摩
	シギンカラマツ	奥多摩	ヤブデマリ	管理
	シバオノエヤナギ	武蔵野	ヤブムラサキ	奥多摩
	シマキンレイカ	伊豆諸島	ヤブムラサキ	管理
	シマホタルブクロ	伊豆諸島	ワダン	武蔵野
	シモツケ	奥多摩		
6	オオハリイ	管理	ナツツバキ	奥多摩
	キセルアザミ	武蔵野	ヒオウギ	奥多摩
	キバナアキギリ	管理	ホタルブクロ	武蔵野
	シラネセンキュウ	管理	ユクノキ	奥多摩
	ツボクサ	武蔵野	ワダン	武蔵野
	ツルニンジン	管理		
7	カラタチバナ	管理	ハマシャジン	伊豆諸島
	コオニユリ	奥多摩	ボタンボウフウ	伊豆諸島
	シマホタルブクロ	伊豆諸島	ママコノシリヌグイ	武蔵野
	スベリヒユ	武蔵野	メナモミ	武蔵野
	センボンヤリ	管理	ヤマホタルブクロ	武蔵野
	タヌキマメ	武蔵野	ワダン	伊豆諸島
8	アズマイバラ	奥多摩	カリガネソウ	管理
	オオアブラススキ	奥多摩	コバギボウシ	奥多摩
	オミナエシ	武蔵野	ノアズキ	管理

表21 学習園植栽植物一覧(3/4)

月	種名	植栽ゾーン	種名	植栽ゾーン
9	アシタバ	伊豆諸島	ツルソバ	管理
	イズノシマウメバチソウ	伊豆諸島	ナギナタコウジュ	管理
	イタビカズラ	伊豆諸島	ハマオモト	伊豆諸島
	オウギカズラ	奥多摩	ハマサワヒヨドリ	伊豆諸島
	オミナエシ	武蔵野	ハマシャジン	伊豆諸島
	ケカモノハシ	伊豆諸島	ミゾコウジュ	武蔵野
	ササクサ	奥多摩	ヤナギイノコズチ	奥多摩
	シマガマズミ	伊豆諸島	ヤブハギ	奥多摩
10	アズマヤマアザミ	奥多摩	ハンショウツル	奥多摩
	カワラノギク	武蔵野	ヒゴスミレ	奥多摩
	キンラン	管理	ヒメハギ	奥多摩
	コウツエビネ	管理	フジウツギ	奥多摩
	ニオイタチツボスミレ	奥多摩	ホタルカズラ	奥多摩
	ネズミガヤ	奥多摩	ミツバツチグリ	奥多摩
	ノジスミレ	奥多摩		
11	イタヤカエデ	管理	コブシ	管理
	ウナギツカミ	武蔵野	シバオノエヤナギ	管理
	ウラジロガシ	管理	センリョウ	武蔵野
	エイザンスミレ	武蔵野	ツクバネガシ	管理
	オオツクバネウツギ	管理	ニガキ	管理
	カワラノギク	武蔵野	ノリウツギ	管理
	カワラヨモギ	武蔵野	ヒメヨモギ	武蔵野
	キブシ	管理	ミゾコウジュ	武蔵野
	クマヤナギ	管理	ヤブサンザシ	管理
12	オオタネツケバナ	武蔵野	クロツバラ	奥多摩
	オミナエシ	武蔵野	シモツケ	管理
1	オオシマカンスゲ	管理	ハルニレ	奥多摩
	コモチシダ	奥多摩	ヤブムラサキ	奥多摩
2	アズマイバラ	奥多摩	バイカツツジ	奥多摩
	イワガラミ	奥多摩	ヒメウラジロ	奥多摩
	ウメウツギ	奥多摩	ヒメレンゲ	奥多摩
	エイザンスミレ	奥多摩	マルバウツギ	奥多摩
	オオツクバネウツギ	奥多摩	ミズナラ	奥多摩
	コチャルメルソウ	奥多摩	ミヤマガマズミ	奥多摩
	サワギキョウ	武蔵野	ミヤマキケマン	奥多摩
	シチトウスミレ	伊豆諸島	ヤマグルマ	奥多摩
	シマテンナンショウ	管理	ユリワサビ	奥多摩
	セントウソウ	奥多摩	ラショウモンカズラ	奥多摩
	タカオスミレ	奥多摩	リョウブ	奥多摩
	ツゲ	奥多摩	リョウメンシダ	奥多摩
	ツノハシバミ	奥多摩		

表22 学習園植栽植物一覧(4/4)

月	種名	植栽ゾーン	種名	植栽ゾーン
3	アオノクマタケラン	管理	タカオスミレ	奥多摩
	アオハダ	奥多摩	タヌキラン	奥多摩
	アオハダ	管理	タマシダ	管理
	アキカラマツ	奥多摩	タマノホシザクラ	武蔵野
	アズマヤマアザミ	奥多摩	タンキリマメ	管理
	イズノシマダイモンジソウ	管理	タンナサワフタギ	奥多摩
	イトスゲ	奥多摩	ツクバネウツギ	奥多摩
	イヌナズナ	奥多摩	ナツハゼ	奥多摩
	イヌホオズキ	武蔵野	ニイジマスミレ	伊豆諸島
	イヨカズラ	管理	ニオイタチツボスミレ	奥多摩
	イワヒトデ	管理	バイカツツジ	奥多摩
	ウラシマソウ	管理	ハマナデシコ	伊豆諸島
	エイザンスミレ	奥多摩	ハマハタザオ	伊豆諸島
	オオシマカンスゲ	管理	ヒキノカサ	管理
	オオタニワタリ	管理	ヒゴスミレ	管理
	オキナグサ	武蔵野	ヒナギキョウ	伊豆諸島
	オシダ	奥多摩	ヒメウラジロ	奥多摩
	オトコヨウゾメ	奥多摩	ヒメシャガ	奥多摩
	カキドオシ	管理	ホソバヒカゲスゲ	奥多摩
	カキドオシ	武蔵野	ホタルカズラ	伊豆諸島
	カシワバハグマ	奥多摩	ホタルブクロ	奥多摩
	カワラヨモギ	武蔵野	ホタルブクロ	武蔵野
	キジムシロ	奥多摩	ミズトラノオ	管理
	キリンソウ	奥多摩	ミゾシダ	管理
	クマワラビ	奥多摩	ミツバツチグリ	奥多摩
	ケスゲ	奥多摩	ミミガタテンナンショウ	奥多摩
	コカンスゲ	奥多摩	ミミガタテンナンショウ	管理
	コクサギ	奥多摩	ミヤマウグイスカグラ	奥多摩
	コチャルメルソウ	奥多摩	ミヤマガマズミ	奥多摩
	サギゴケ	武蔵野	ミヤマキケマン	奥多摩
	サクユリ	管理	モロコシソウ	管理
	シバヤナギ	奥多摩	ヤブムラサキ	奥多摩
	シマキンレイカ	管理	ヤマオダマキ	奥多摩
	シマタヌキラン	伊豆諸島	ヤマスズメノヒエ	奥多摩
	シマホタルブクロ	伊豆諸島	ヤマツツジ	奥多摩
	シモツケ	武蔵野	ヤマユリ	管理
	ジュウニヒトエ	奥多摩	ユキヤナギ	奥多摩
	ジョウロウスゲ	管理	ユキヤナギ	武蔵野
	ゼンテイカ	奥多摩	ラショウモンカズラ	奥多摩
	センボンヤリ	管理	リョウブ	奥多摩
	ソナレムグラ	伊豆諸島		



写真27 ピオトープ池の拡充



写真28 シマキンレイカの植栽

V. その他

1 来館者数

令和7年度（2025年度）の植物多様性センター内情報館の来館者数を、表23及び図3に示した。来館者数は開設以来最多の37,736人であった。

平成31年度（2019年度）から令和3年度（2021年度）まで、新型コロナウイルス感染症（COVID - 19）の感染拡大防止のため、数日から数か月の臨時休園措置を繰り返したが、令和4年度（2022年度）以降は臨時休園措置を行っていない。その令和4年度（2022年度）に開設以来最多の来館者35,965人を記録した。その後やや減少傾向にあったが、令和7年度（2025年度）は3年ぶりに最多数を更新した。

表23 情報館来館者数の推移

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R5	3,257	3,576	2,618	2,546	2,001	2,262	3,100	2,660	1,989	2,331	2,473	2,658	31,471
R6	3,390	4,120	2,436	1,967	2,132	2,311	2,828	3,161	2,173	2,299	3,174	2,797	32,788
R7	3,861	4,917	2,606	3,034	2,844	2,764	2,677	3,877	2,134	2,777	2,888	3,357	37,736

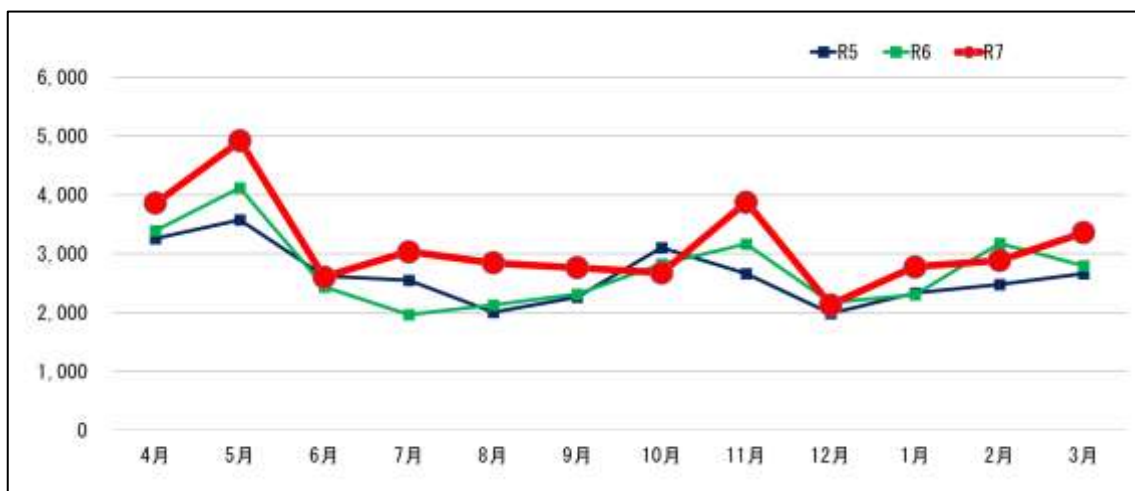


図3 情報館来館者数の推移

2 アドバイザリー会議の開催

1月24日に「神代植物公園植物多様性センターアドバイザリー会議設置要綱」に基づき、アドバイザリー会議を開催した。本会議は植物多様性センターにおいて実施する植物多様性保全において専門的見地からの助言を目的とするものである。植物多様性センターが保全対象としている優先保全対象種118種のモニタリング調査が終了したことと、また優先保全対象種の選定から16年が経過していることから、今後の取組について助言をいただくことを目的として、会議を招集した。出席者を表24に示した。

アドバイザーからは、「植物をとりまく状況は常に変わるので、保全の取組は5年程度で見直しが必要」「保全は生息域外保全と生息域内保全の両輪で進めることが必要」等のご意見をいただいた。また植物多様性センターの取組自体に対し、「事業の成果と課題を見える化してほしい」「東京都の植物保全を一手に引き受けるのはハードルが高いので、機能とゴールを定める必要がある」等のご意見をいただいた。

表24 アドバイザリー会議出席者

		敬称略
アドバイザー	国立科学博物館筑波実験植物園 園長	遊川 知久
	公益財団法人日本自然保護協会	藤田 卓
東京都建設局	公園緑地部計画課統括課長代理	小石 晶子
	東部公園緑地事務所事業推進課課長代理	進野 裕規
	西部公園緑地事務所工事課課長代理	熊谷 拓朗
東京都公園協会	神代植物公園 園長	松井 映樹
	神代植物公園植物多様性センター センター長	田中 利彦
	神代植物公園植物多様性センター 元センター長 (現・防災区部西エリア担当課長)	照井 進介